

平成29年度 農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策)
事業実施主体 評価一覧

●地域資源活用対策及び人材活用対策(地域活性化対策)

【(1)活動計画策定】 2件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階						評価	評 価 コ メ ン ト
				H28	H29	H30	H31	H32	H33		
沖縄	沖縄	本部町	本部町具志堅地区田園空間利活用推進協議会	●	●	□				A	<p>本事業の開始前は、拠点となる田園空間施設(田空の駅ハーソー公園)は、認知度が低く、利用者は限定されており利用者数、売上は低い状況であった。本交付金の活用により、事務局である「もとぶバイオマス事業協同組合」を中心に行政機関や観光協会等と連携し、円滑な事業執行を実現した。</p> <p>また、平成28年度から開始した田空ヤギ祭りやリュウキュウベンケイソウ花祭りなど地域資源を新たな視点で活用したイベントがメディアに掲載されるなど認知度の向上が図られた。</p> <p>目標については、交流人口、売上、雇用ともに達成しており、現時点では事業の効果を十分に発揮していると認められ、将来性が期待できる取組である。</p> <p>今後は事業の継続を図りつつ、より広く県内外へのアピールに努めることも重要である。</p>
沖縄	沖縄	名護市	名護東海岸アグリプロジェクト	—	●	○	○	○	□	A	<p>名護市二見以北10地区の交流拠点施設である「わんさか大浦パーク」は、認知度が低く、利用者も地域住民等に限定されている状況であった。本交付金の活用により、事務局である「わんさか大浦パーク」を中心に二見以北地域振興会、久志地域交流推進協議会、二見あかカラシナ生産組合や行政機関等と連携し、円滑な事業執行を実現した。</p> <p>また、今回新たに地域イベントとして行った「嘉例祭」は参加者からも好評で、交流人口の増加と地元食材の消費拡大とともに「わんさか大浦パーク」の知名度向上にも繋がっている。</p> <p>目標については、交流人口、売上、雇用ともに達成しており、地元住民の生きがい作りにも貢献している。現時点では事業の効果を十分に発揮していると認められ、将来性が期待できる取組である。</p> <p>今後は事業の継続を図りつつ、二見以北10地区の実情に合わせた体制づくりや取組を行うとともに、わんさか大浦パークの知名度向上に努める必要がある。</p>

(注1)「事業実施段階」の凡例: ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)

(注2)「評価」の区分: A…優良 B…良好 C…低調

平成29年度 農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策)
事業実施主体 評価一覧

●農福連携対策(農福連携普及啓発等推進対策事業を除く)

【福祉農園整備事業及び福祉農園支援事業】 1件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階						評価	評価コメント
				H28	H29	H30	H31	H32	H33		
沖縄	沖縄	中城村	合同会社Nハウス	—	●	○	□			A	<p>パイプハウスを6棟整備することにより、雨天時でも作業が可能となったことから、利用者が担う農作業や出勤日数が増加したことで、利用者の労働意欲向上に繋がり、このことが農業による生活の質の向上にも繋がった。</p> <p>また、専門家を招へいした農業技術研修により、農業生産が拡大するとともに品質が向上し、その結果、販売単価が増加したことで、工賃(賃金)も増加している。さらに、このような技術力向上は施設外労働という形で不足しがちな地域の農業労働力供給にも役立っていることは特筆に値することであり、この種の取組が、直接的な利用者だけではなく、地域に対しても利益をもたらしていることを示している。</p> <p>目標については、売上、就労・雇用ともに達成しており、本事業の効果を十分に発揮している。この点についても、労働環境改善がいかに大きな効果を生み出すかということを示しており、沖縄における農福連携の先進的事例のひとつとして全国へ取組が広く発信されることを期待している。</p>

(注1)「事業実施段階」の凡例: ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)

(注2)「評価」の区分: A…優良 B…良好 C…低調

平成29年度 農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策) 事業実施主体 評価一覧

【平成29年度農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策)の評価概要】

○地域資源活用対策及び人材活用対策(地域活性化対策)

・今回は2地区の評価を行い、2地区とも本事業の効果を発揮しているのでA評価であった。本部町具志堅地区田園空間施設利活用推進協議会は、地域資源の活用や新たなイベントなどで地域の活性化に貢献し、メディアへの活用で認知度をあげ、イベントによる地域の知名度向上へ努めた。名護東海岸アグリプロジェクトも地域交流拠点施設の知名度の向上のため、新たなイベントの開催など積極的に活動を行った。

○農福連携対策(農福連携普及啓発等推進対策事業を除く)

・合同会社Nハウスは、福祉農園の整備としてパイプハウスを6棟整備し、環境整備を行ったことで本事業の効果を十分に発揮することができ、地域への貢献も大きい。

【平成29年度評価委員会の議事概要】

【評価委員会】

1. 日 時 平成30年9月19日(水) 14時00分～16時00分

2. 場 所 沖縄総合事務局 会議室

3. 出席者

・評価委員会委員 2名 (五十音順)
幸喜 徳子 沖縄石油ガス株式会社代表取締役会長
杉村 泰彦(委員長) 琉球大学農学部准教授

・評価委員会事務局
沖縄総合事務局 3名

4. 議事概要

1) 農山漁村振興交付金の評価について

- ・地域活性化対策(農山漁村における農林水産物の販売・加工、農山漁村の地域提案型活動)の各実施団体の評価内容(案)について、委員からの意見聴取を行った。
- ・農福連携対策(農福連携普及啓発等推進対策事業を除く)の各実施団体の評価内容(案)について、委員からの意見聴取を行った。

2) 農山漁村振興交付金の評価結果(案)の取りまとめ

- ・上記1)の結果を踏まえ、地域活性化対策(農山漁村における農林水産物の販売・加工、農山漁村の地域提案型活動)について、公表用評価コメントを様式に取りまとめた。
- ・上記1)の結果を踏まえ、農福連携対策(農福連携普及啓発等推進対策事業を除く)について、公表用評価コメントを様式に取りまとめた。

5. 評価委員会委員の主な意見

①本部町具志堅地区田園空間利活用推進協議会

・地域資源を新たな視点で活用したイベントがメディアに掲載され、地域の認知度の向上に努め、本事業の効果を十分に発揮しており、将来性が期待できる。

②名護東海岸アグリプロジェクト

・名護市二見以北10地区の交流拠点施設の認知度の向上や地域資源の活用に評価があるが、事業の継続を図りつつ、さらなる知名度向上に努める必要がある。

①合同会社Nハウス

・本事業の労働環境の改善がいかに良いかを示す良いモデルケースになることを期待し、利用者だけでなく地域に対しての貢献を今後も期待する。